

霧島山（新燃岳） 水質調査について 【H23.3.8時点】

降灰による河川水質への影響把握のため水質調査を実施。

霧島山(新燃岳)の噴火活動が活発になり、現地において相当程度の降灰が確認されております。
過去の噴火(1960年)における降灰が強い酸性であったことから、河川水のpH(水素イオン濃度)の調査を実施することとしました。
また、河川に流入した降灰が、河川の生物(魚類等)に影響を与える可能性がある為、SS(浮遊物質量)の調査を実施します。

※国交省と、宮崎県、都城市では定期水質調査(月1回)に加え、週1回の水質調査を実施しています。

今回の調査の結果は...

pH(水素イオン濃度)について、

大淀川全域において、例年の通常時と比較して特異な数値ではありません。

SS(浮遊物質量)について、

大淀川上流域において、降雨により増加が見られましたが、一時的な増加であったこと、pH値の大きな変化が見られないことから降灰による河川環境への影響は少ないもの(通常の降雨時と同様)と考えられます。

大淀川下流域においては、噴火前後、及び降雨による影響は見られません。

上記のことから、降雨に伴う降灰の河川への流入は考えられるものの、そのことによる河川環境への影響については現時点では見られません。



【水質調査地点】
大淀川本川 相生橋

● ...定期水質調査(月1回)地点(国)

【水質調査地点】
大淀川本川 樋渡橋

【水質調査地点】
支川高崎川
鶴崎橋(巣立橋)

【水質調査地点】
支川庄内川 鵜の島橋

水質調査概要

【水質調査(週1回)】・・計4地点
→国交省、都城市において、週1回水質調査(pH,SS)を実施。

【臨時水質調査】・・計4地点
→国交省、宮崎県において降雨による出水時など、必要に応じて水質調査(pH,SS)を実施。

【参考】

- ・pHとは、水の酸性とアルカリ性の度合を示す指標で、単位はありません。中性の水はpH7で、7より小さいものは酸性、7より大きいものはアルカリ性です。
- ・SSとは、水中に懸濁している不溶性の粒子状物質のことです。通常の河川のSSは25mg/L以下、かなり汚濁した河川でも100mg/L以下ですが、降雨後の濁水の流出時には数百mg/L以上になることもあります。例えば、造成工事に伴い流出する濁水のSSは 500~5000mg/L程度といわれています。

水質調査結果 一覧表

観測地点	噴火前 (定期)		2月1週 (2/3)		臨時 (2/7)		2月2週 (2/10)		2月3週 (2/17)		臨時 (2/19)		2月4週 (2/24)		臨時 (2/28)		3月1週 (3/3)		H21年測定結果 【通常時調査】	
	pH	SS	pH	SS	pH	SS	pH	SS	pH	SS	pH	SS	pH	SS	pH	SS	pH	SS	pH	SS(mg/l)
相生橋	7.9	3	7.6	6	7.6	4	7.5	5	7.4	6	7.6	6	7.5	7	7.8	13	7.7	5	7.3~8.0	<1~9
樋渡橋	7.6	5	7.7	15	7.5	11	7.4	12	7.3	102	7.6	14	7.4	20	7.4	147	7.6	13	7.3~7.7	<1~17
鶴崎橋	7.7	6	7.9	17	△	△	7.9	12	7.7	90	△	△	7.5	15	7.5	180	7.4	14	7.3~7.7	<1~15
鵜の島橋	7.6	4	7.8	10	△	△	7.8	1.9	7.8	64	△	△	7.4	19	7.5	98	7.3	9	7.1~7.7	<1~22

※臨時(2/19)の相生橋地点のデータは2/18採水

水質調査結果 経過グラフ

